

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 徳島県 】

学校名【 徳島県立徳島商業高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V
2 実施対象者 (学年・人数)	<p>主体：3年生 70名（課題研究選択者） 2年生 商業科4クラス 140名</p> <p>ステージ参加：吹奏楽部 歌唱など約50名</p> <p>運営サポート：ビジネス研究部 30名</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（課題研究（3年） 商品開発・ビジネス経済・マーケティング（2年））</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ 徳商デパート ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>商業高校生として起業家精神及びビジネス活動に不可欠な基礎的・基本的な資質・能力を養う。</p> <p>また、地元企業などと連携した街の活性化支援の取り組みをとおして地域貢献できる実践力を養う。今年のテーマは「温故知新～未来をつなぐホストタウンストーリー～」内容として、徳島県は2020東京大会で「ドイツ」「カンボジア」のホストタウンを務めており、徳商はカンボジアとの関係が深いため、デパートでも盛り上げていく。</p>
5 取組内容	<p>事前学習については、3年生課題研究では週3時間の授業時間を5月から9月まで準備期間として行った。2年生商業科の各授業においては、週に1～2回程度事前学習に充てた。</p> <p>(以下生徒の報告文)</p> <p>令和元年度の徳商デパートは10月13日（ポカリスエットスタジアム）と10月26日の2回開催されました。今年のテーマは「温故知新～未来へ繋ぐホストタウンストーリー～」です。徳島県がホストタウンを務める「カンボジア」「ドイツ」「ネパール」「ジョージア」と連携させた商品を開発し、2年生商業科4クラス、3年生課題研究選択者の合計約200名が徳商デパートに参加し、本部、店舗、イベント、ステージの四つのグループに分けて行いました。</p> <p>第1回徳商デパートは10月13日に鳴門ポカリスエットスタジアムで開催された徳島ヴォルティスのホームプロデュース</p>

イベント「スタジアム学園祭」で行われました。徳島商業高校は17店舗が商品の販売を行い、4種類のイベントを企画しました。店舗では、ヴォルティスのサポーターの方など、多くの方に商品を購入していただきました。ジョージアワインを使用したロールケーキやネパール餃子の「モモ」など今年度はじめてお目見えする商品も多数ありました。多くのお客様で賑わい、午前中に完売する班もあり、店舗終了時には、ほとんどの班が完売しました。イベントでは「缶バッチ作り体験」、「写真立て作り体験」、「バルーンアート」、「VR体験」を行いました。VR体験は今年度新たに始めたイベントで、鳴門の渦潮や県南で新たに取り組んでいるジップラインの360度映像など、大人も子供も楽しめる映像を用意し、当日も多くの方に体験していただくことができました。当日は風が強く、テントが飛ばされそうになることもありました。しかし、全員が風に負けないぐらい声を出して販売し、多くの班が商品売り切ることができました。また、当日は初めて徳商デパートを体験する人もたくさんいましたが、慣れてくるにつれて販売する生徒たちも良い雰囲気での販売することができました。OB・OGの方々にも手伝っていただき、無事販売を終了することができました。

第2回徳商デパートは10月26日にSOGO二階アミコドーム周辺にて開催されました。第1回目と同じ17店舗の他、例年大好評の「はじめてのおしごと」に加え、ポッチャ体験、VR体験など多彩なイベントを用意したことにより、より徳商デパートが盛り上がりました。そのこともあり、子ども連れの親子がたくさん訪れました。この日は最高気温が二十五℃ととても暖かく、多くのお客さんととてもにぎわいました。ステージでは、徳島商業高校生が歌ったり、吹奏楽部や阿波踊り部の皆さんたちのパフォーマンスで徳商デパートを盛り上げてくれました。はじめてのおしごとは、「和菓子作り体験」「木工体験」「缶バッチ作り体験」「商店体験」「フラワーアレンジメント」「VR体験」「ポッチャ体験」の6ブースを用意しました。フラワーアレンジメントは、子どもとお母さんが一緒に参加することが多かったです。他の体験も、ほとんどの子供達が初めての体験で、新しいことに挑戦し楽しんでくれました。体験した子供達が「楽しかった」と言いながら笑顔で帰っているのを見てやりがいを感じました。

また、当日はレジ袋サクゲン作戦も行いました。前日までにテレビなどで宣伝したため、多くの方々に紙袋を持ってきていただき、400枚以上の紙袋を集めることができました。少しずつですが、私たちが取り組んでいるレジ袋サクゲン作戦が浸透してきていると感じることができました。





<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> •多くの県民に徳島県がホストタウンとなっている国のことを知ってもらうことができた。(第一回と苦笑でパート推定参加者5,000名 第2回徳商デパート推定参加者4,000名) •ポッチャなどパラリンピック競技について県民に知らせると共に高校生自身も知ることができた。 •ホストタウンについての生徒の認知度は、学習前50%程度であったがイベント後は100%になった。 •東京2020大会に対して応援する機運醸成ができた。 (イベント実施後95%がなんらかの形で係わりたいとの回答があった。)
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>高校生が主体的に、運営を担っている点。3年生に本部チーム(大学の学祭実行委員会的なチーム)を設置し、2年生の参加チームを含めイベント全体の牽引役としてタイムコントロールした。また、7月にはプレゼンテーション大会を実施し、企業やマスコミの前で商品について説明することで、緊張感と責任、自覚などが芽生えた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>今回は、自転車置き場の確保などで手間取った。細かい部分までしっかりと確認しながら準備する必要がある。また、企業との連携打ち合わせがギリギリになった班が見られた。本部も担当者により対応差があるため、教員がしっかりとチェックする必要がある。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度も継続の予定である。来年度は、本校のみでは無く希望する小学校、中学校とも連携していきたい。また、共生社会の学びとしてのパラリンピックへの理解が深まる企画も増やしていきたい。</p>